

情勢報告（平成28年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

経営の目標達成と早期安定を目指して ～大豊町・土佐町で新規就農者の個別面談～



新規就農者の面談風景

大豊町・土佐町の地域担い手育成総合支援協議会は、7月14～15日に新規就農者の経営改善に関する個別面談を各役場で実施しました。

対象者はトマトなどの夏秋栽培者7人で、普及所からは栽培技術の改善、経営計画の見直し等について助言指導を行いました。また、中央東農業振興センター管内を担当する新規就農支援員からは日頃の巡回指導で気付いた点やこれからの栽培について助言してもらいました。

嶺北地域の夏秋栽培は、これから最盛期を迎えるので引き続き栽培技術向上への指導を中心にを行い、作終了後には再度面談を実施し、経営改善に向けた支援を行います。

ちゃんとできていますか？～環境点検～



ハウス環境の点検中

J A土佐れいほく園芸部はISO14001に基づく「れいほく版ISO」を実践しています。7月20、21日にJ A・各町村役場・普及所が園芸部の依頼で全部会員105人を巡回し、「れいほく版ISO」がきちんと実行できているか点検を行いました。

点検はチェックシートを使い、ハウス内に廃棄物が散乱していないか、農薬を鍵のかかる保管庫にしているか、それらを作業履歴に記録しているかなどの項目をひとつひとつ確認しました。その結果、どの部会員もほとんどの項目が出来ていることがわかりました。

普及所では、J A園芸部が取り組んでいる環境保全型農業の活動を支援しています。

キムチの品質向上を目指して！～樺原町「鷹取キムチ」で研修～



キムチづくりを体験

7月28日、本山町キムチ生産組合「うれっこ」は、自分たちが作るキムチの品質向上と加工作業の効率化、販売方法の研究を目的に、先進的に取り組んでいる樺原町の「鷹取キムチ」を視察しました。参加者は、同生産組合のメンバー4人と、普及所をはじめ関係機関の職員5人が参加しました。

研修を通して、参加者は、「味を均一にするための工夫や計画的な生産、厳格な衛生管理の実施など、大変参考になり、学ぶべき点が多かった」と感心していました。

普及所は、今後も地元産にこだわった同組合のキムチの品質向上に努めながら、特徴を生かした料理への活用方法や販売促進資材の検討など、収益アップを目指し支援していきます。

地域の篤農家技術を学ぼう！ シシトウ現地検討会の開催



整枝作業は適期実施が大切

7月29日、JA土佐れいほくシシトウ部会では、地域の篤農家の技術を学び、今後の栽培管理に生かすことを目的に、土佐町の雨よけ及び露地栽培（各1戸）のほ場で現地検討会を開催しました。普及所からは夏の栽培管理の説明と整枝方法の実演を行いました。

30人の農家が参加し、篤農家に対して「整枝の方法はどうしているのか」「灌水はどの程度与えているのか」という質問が寄せられました。また「ほ場にゴミが無く、きれいに管理されている」「これからも地元の篤農家を視察したい」という感想がありました。

普及所は、今後も今回のような篤農家技術を学ぶ機会を設け、産地の栽培技術向上を目指します。

第2回柚子産地協議会の開催



柚子産地協議会

7月29日にJA、町、生産者代表等10人が参加し、柚子産地協議会が開催されました。

内容は産地構造改革計画の改正案や平成28年度行動計画の進捗状況に関する協議で、JAから園地改良計画等を追加した改正案が提案され了承されました。普及所は結実調査に基づく作況や省力化、労働力確保対策などの進捗状況を報告しました。

作況は平年並み、省力化対策は老木の改植やモノレールの設置等、労働力確保対策は農業法人が行う作業受託の強化等が概ね計画どおりに進んでおり、今後も、こうした活動を着実に進めていくことが確認されました。

大豊町の園芸品目活性化に向けて ～JA園芸部大豊支部園芸推進会を開催～



園芸推進会の様子

7月31日、JA土佐れいほく園芸部大豊支部主催の「園芸推進会」が開催され、園芸部員15人が参加しました。

この会は、大豊町の主要園芸品目であるシシトウやミニトマト等の生産者が集い、栽培技術や補助事業等町施策の情報提供と生産者同士の交流を目的に、夏秋野菜の収穫盛期となるこの時期に毎年実施しています。

普及所からは、「シシトウの石実果、辛味果対策」「天敵に関する最新情報」「冬作品目について」「病害虫防除と農薬適正使用」などについて情報提供しました。

参加者からは、「シシトウの石実果は低温時期に発生が多いがどうしてか」などの質問も出され、活発に情報交換を行いました。

今後は、JA園芸部各部会毎の活動を中心に支援を行っていく予定です。

農・畜・林合同職場研修会開催



熱心にお互いの業務を学ぶ職員

8月2日、嶺北管内の3事務所がお互いの業務内容を理解し、横断的に産業・地域振興に生かすことを目的に、嶺北林業振興事務所、中央家畜保健衛生所嶺北支所、普及所の職員22人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

職員からは、「お互いの業務内容がよく解り大変勉強になった」「農業・畜産・林業がそれぞれ単独で担い手を確保するのではなく、複合的な就業のあり方も考えたい」との意見が出ました。

今後も研修会を定期的に行い、農・畜・林の3事務所がお互いに情報共有し、嶺北地域の産業・地域振興に取り組んでいきます。

普及現場で生かすぞ！ タブレット研修会開催ー



まずは使い慣れることが大事

8月2日、28年度に普及所に配布されたタブレット型PCの活用方法を学ぶことを目的に、環境農業推進課の情報担当者を講師に迎え、職員11人全員が参加して、普及所でタブレットの使い方について研修しました。

職員からは、「土壌図、農薬の希釈量、雑草検索、リアルタイムの気象データソフトなどは現場ですぐに役立ちそうだ」と言った声が出ました。

今後は、効率的な普及指導活動の手段として普及現場でのタブレットの積極的な活用を図っていきます。

水稻優良種子生産に向けたほ場審査を実施



ほ場審査を実施中

8月10日普及所、JA、専門技術員、農業技術センター9人が参加し、土佐町の田井採種組合と相川採種組合の早期品種（コシヒカリ）のほ場審査（3戸、275a、14ほ場）を行いました。

今年は生育前期の日照不足やいもち病注意報の発令等により病害の発生が懸念されましたが、種子生産者は適期薬剤防除や適正な水管理及び鳥獣害対策を行っており、全てのほ場で審査が合格となりました。

普及所はこれからも水稻採種農家に対して優良種子生産に向けた栽培指導を行っていきます。

本山町で「集落営農を考える交流会」を開催



交流会での意見交換風景

本山町の集落営農組織と(一財)本山町農業公社とが連携し農地を維持・管理していくための仕組みづくりを検討していくため、8月16日に「集落営農を考える交流会」を開催し、町内の6集落営農組織、認定農業者、関係機関など、31人が参加しました。

会では、県の専門技術員から「地域営農の仕組みづくり」にむけて県内での取組事例の紹介がありました。また、各集落営農組織の課題等について意見交換を行い、農業公社と集落営農組織が情報を共有し、農地を守っていくための仕組みづくりについて協議していくことになりました。

今後、普及所は、農業公社・J A・役場と連携し、町内の農地を荒らさず守っていく体制づくりへの支援を行っていきます。